

コープ災害ボランティア ネットワークニュース

【第119号】2022年12月
東京都生活協同組合連合会
コープ災害ボランティア
ネットワーク幹事会
TEL：03-3383-7800

第19期コープ災害ボランティア基礎講座の第1講と第2講が終了しました。第1講の「オリエンテーション」は会場またはオンラインでの受講を選択。第2講の「中野の防災まち歩き」は東京都生協連合会館に集合して実施し、2年半ぶりに対面して活動できました。

報告

CO災ボ基礎講座 第1講 10月22日(土)「オリエンテーション」

開講あいさつ

東京都生協連 秋山純専務

CO災ボは設立20年、生協の職員や組合員、中野区の方など700人以上が受講、現在は500人弱の方が登録、参加されネットワークを築いています。



昨日も福島県楡葉町で大きな地震がありましたが、災害が起きた時に行政がやってくれるだけでなく、私たち一人ひとりがボランティアという形で関わるということが、この20年の間に定着してきました。私たちはボランティア活動を泥かきなど大上段にイメージしがちであり、受講者のみなさんとCO災ボが目指しているものは少し違うのかな？と思います。

この基礎講座は、学ぶことによりご自身とご家族が災害時に命とくらしを守る術を身に付け、その上で周りの人にも声かけやちょっとしたお手伝いができる。そのきっかけにしていきたいと思っています。私たちにできることは少ないかもしれませんが、できることを増やせることがこの基礎講座の優れている所です。みなさんといっしょに楽しんで学びたいと思います。

最後に講座を企画運営するCO災ボの幹事のみなさんの努力に感謝を申し上げます。



【プログラム 1】 CO災ボの説明・講座の目的と進め方・修了したら CO災ボ代表幹事 西裕子

最初の学習として、「コープ災害ボランティアネットワークの20年」の冊子からCO災ボとは何か、どのような活動をしてきたのか、続いて今期の全5講座の概要と今後の進め方を学びました。修了後はCO災ボ会員に登録され、講座などの企画の案内や災害防災に関連する情報が届けられます。



次に第2期を修了した後の20年間の経験を、活動事例として紹介されました。得られた情報や知識を生かして、居住地の練馬区で地域の避難所運営やマンションの防災会に参加され、生協の組合員活動に取り組みました。さらに活動が広がり、練馬区防災懇談会委員や男女共同参画推進懇談会委員となり、区民や女性の立場から行政への意見や要望を伝えています。

今後の活動では知識や技術よりも「気づき」が一番大切で、「自分ができることは何か」を考えることが活動の第1歩になることを提言されました。

第19期の受講生は30人です。

第1講「オリエンテーション」には会場に受講生9人と幹事6人、オンラインで受講生19人が参加しました。三宅隆さんの体験に基づいたお話を第2講の事前学習としてお聴きしました。

第2講「中野の防災まち歩き」(中野区社会福祉協議会と共催)には21人の受講生が参加しました。今回は中野区視覚障害者福祉協会から4人(ガイドヘルパーさん3人)、橋場・宮桃・桃園町会など地域から9人の方々の協力参加を得て実施しました。58人の参加があり、さまざまな団体と連携した活動となりました。

【プログラム 2】

「命をまもる防災・減災を学ぶ～被災地支援の経験から～」東京災害ボランティアネットワーク福田信章さん

近年、直下型の地震災害、噴火災害、津波災害、土砂災害、水害など、さまざまな自然災害がありました。被害も地域も被災者もその困りごとともさまざまですが、「いのちが奪われてしまう」「くらしが壊れてしまう」というのが大きな共通点です。



支援に入った現場でのエピソードを紹介します。町会長さんが体調を崩されながらも「自分が頑張らないと」と、一生懸命活動していましたが、近くにいたボランティアから「頑張り過ぎないで」と言葉をかけられ泣き崩れたことがありました。私自身は町会長さんの様子に気が付いていたのですが「仕方ない」と思っていました。被害は人の心であり、被災者という「人」を見ることが大事だと気付きました。

津波で母親を亡くした中学2年生から中高生に向けての言葉です。「私は母との最後の会話がケンカみたいになってしまい『行ってきます』と言えなかった。親とはいつも仲良くしてほしい」と言っていました。

被災地ではテントで開催するサロンでも、「集まってくれる場所を作ってくれることが、物資の支援と同じように助かる」と言われました。色々な課題を解決できなくても応援することが、少しでもいのちとくらしを支えることにつながるのだと思います。

災害が起きる前の防災減災の活動も同じぐらい大事です。1人や1団体ではできることに限界があるので、多くの人や団体といっしょに取り組むこと、連携や支援を受ける力(受援力)を高めること。そのためには地域の防災をみんなで考えることが必要です。

災害が起きた時にできることはあまりなく、むしろ災害が起こる前にできることはたくさんあるということを考えながら、基礎講座に取り組んでください。

【プログラム 3】

「視覚障害のある人の災害と防災」中野区視覚障害者福祉協会 三宅隆さん

福田さんのお話から普段いかに自分が様々なことに気付けるかが大事だと思いました。また、私たちのような視覚障害者がいることにも気付いてほしいです。普段の生活から地域とつながる大事さなど、勉強になりました。



東日本大震災の経験から

私は会議からの帰路で早稲田通りはすごい人の列でした。普段から裏道を歩いていたので私はいつも通りに帰宅できました。視覚障害者は避難所に行くこと自体が大変ですが、さらに避難所での生活も難しいです。しかし、一番の困りごとは避難所でも自宅でも共通情報が得られないことです。「救援物資が届きました」の貼紙だけでなく、私たちにもわかるような情報の提供が必要だと思います。

視覚障害者への手助け

視覚障害者の見え方はさまざまですが、音や空気の流れで距離感や曲がり角など知ることができます。例えば鉄道も危険な場合がありますが、駐車場所や時間が決まっていますアナウンスもあります。怖いのは道路です。静音車が増え接近しても停車していてもわからず、通行人にも危険を感じます。横断歩道では「青ですよ」「赤ですよ」と、ひとこと気軽に声をかけてください。そしてどう誘導できるか聞いて確かめてください。さらに災害時は非日常の状態になり何をお願いすればよいのかわからなくなるので、「ご案内しますよ」と声をかけていただきたいです。

今回のまち歩きにはガイドヘルパーが付き添ってくれますが、町の状態や段差や曲がり角など道の状態をポイントなど、みなさんが声で届けてほしいです。参加する4人は見え方も年齢も普段の行動も違うので、それぞれの対応の違いを学び共有したいです。

受講者のアンケートより(抜粋)

受講動機「災害時に慌てないための知識を身に着けたかったため」「災害ボランティアとどのようなものか知りたかった」「自分が被災した時に協働できるようになりたい」「災害が多いから」「家族に子どもや高齢者がいて、守るために防災の基本を学びたい」

感想「災害では自分目線ではなく、被災者目線に立つことだと理解できた」「福田さんの被災現場でのエピソードからの気づきが心に残った。三宅さんから具体的なサポートを教えていただいた。障害のある人もない人も心地よくさせるよう、周りの人に伝えたい」「ポイントは気づき、その気づきをだれかと共有することも大切だと感じた」「三名の方からお話を聞いてよかった。それぞれの方からたくさん学ぶことができた」「これからの講座への心構えができた」

報告

11月9日(水)

東京都・神津島村合同総合防災訓練

2年ぶりの島しょ部訓練に東京都生協連が参加しました。(神津島にはコープみらいが週に2度船便で供給)

「生協の災害への取り組み」「島しょ部での災害支援の取り組み」などの展示訓練や、IP無線機での通信訓練を実施しました。



宮桃町会コース
のマップ

当日は東京都生協連周辺の橋場町会・宮桃町会・桃園町会の3コースを「右回り」「左回り」に分け、6つのグループになりました。それぞれ1時間程度で歩くことができるコースです。

最初に福田信章さんからオリエンテーションを受けました。まち歩きでは防災や減災のポイントを確認しながら、中野区視覚障害者福祉協会のみなさんといっしょに、町会のみなさんから取り組みや歴史を聞きながら歩くと時間が足りないほどでした。

東京都生協連に帰着後はグループごとに感想を出し合い、ふりかえりを行いました。グループごとに発表、中野区視覚障害者福祉協会のみなさんから感想、最後に中野区視覚障害者福祉協会の三宅隆さんに、第1講と第2講の講評をいただき終了しました。

橋場・宮桃・桃園町会のみなさん、中野区視覚障害者福祉協会のみなさんのご協力により充実したまち歩きになりました。



橋場町会コース

距離は長くないが路地が多め。災害拠点病院など拠点がまとまっている。徳川吉宗の狩場で狩りの際に橋をかけたことが町名となった。



左から、災害拠点病院の新渡戸記念中野総合病院、中野区立中央公園の防災倉庫とスタンドパイプ、防火水槽の看板(20mは小さめ)、桃園区民活動センターの消火ポンプと防火水槽(黄色の枠)。中野区視覚障害者福祉協会の方から「私と一緒に歩いてみませんか」とお誘いがあり、交代で体験しました。

宮桃町会コース

アップダウンが少なく比較的道路が整っている。杉並区との境。町会の活動が活発に行われている。



左から、防災広場(広場や公園がなく、この小さな防災ひろばが子どもの遊び場やイベント会場にも活用されている)、桃園川(暗渠工事で遊歩道となり氾濫が無くなった)、桃花小学校のプール取水口、帰着後のふりかえり。

桃園町会コース

密集した住宅地、お屋敷街、商店街と町の表情が多彩。地形が複雑で崖や坂道がある。



坂道の途中大谷石の壁面は定期的に調査。レンガ坂の桃園会館は町会の活動拠点で隣に共有井戸とお稲荷さん。レンガ坂のおしゃれな消火器収納。防災公園のオストメイトトイレ（人工肛門の方も利用できる）

受講者アンケートより（抜粋）

- ・多くの防災設備があることがわかった反面、地域町会とのつながり、人と人とのつながりの重要性をあらためて感じました。自分の視点が増えたので、引き続き学びを深めたいと思います。
- ・もう少し距離が短いか時間を取って、じっくり確認しながら説明も聞きたかったです。ただ普段からどういう視点で歩いたらよいかわかりました。
- ・いざという時に慌てないためにも、自分の住む町をすぐに歩いて確認したくなりました。
- ・自分の町会を知り尽くしているつもりでも、改めて気づくことができました。とても良かったです。
- ・まちに愛着がわくエピソードを知ることができ、良かったです。水路の道筋が変わったこと、それによって浸水範囲に影響があることを知りました。
- ・皆さんで仲良く楽しく歩き学ぶことができました。
- ・視覚障害のある方と様々な立場の人と交流できました。
- ・短い距離でも注意を払って歩くと疲れました。災害時はさらに歩きにくくなることが想像されました。

3町会の桃園地域は歴史ある町。徳川吉宗が犬囲いの跡地に紅白の桃を植え桃園としたことから称されたそうです。防災の視点で備えや危険な場所を見つけるだけでなく、まちの良さや残しておきたい所も見つけながら、いっしょに歩く人たちと共有しながら歩きました。大事なことは自分のまちを知ることです。みなさんもぜひ家族や友人と、「防災まち歩き」にチャレンジしてみましよう！



コラム by 下地智和 幹事

11月19日土曜日の第2講の防災まち歩きは、基礎講座の「お楽しみ」だと思います。

当日は街の中の危険なところだけではなく良いところを見つけ、「気づき」を得ようというテーマでいざ出発です。総勢58人参加のプログラムとなり、私たちのグループは8人で中野区宮桃町会内に設定されたコースを歩きました。東京都生協連会館を出て、コース上のポイントを見たり話し合ったりしながらおよそ50分で戻る予定です。町内会長さんを先頭に防災倉庫では庫内を見せていただき、周辺の防火水槽の存在を確認したりしました。普段の生活でそういうものを気に留める事はなかったなと思いました。

道路の様子や建物の様子を見て、路地のあちこちに設置されている消火器の数に驚き、さらに町内会で維持管理されている事を知り、町内会長さんに感謝を伝えている参加者もいました。私は参加者の様子を傍目にしながら近づいてくる自転車を見て緊張したり、郵便配達バイクの音に身構えたり。きっとバイクや自転車を凝視していたのではないかと思います。自転車の主も「なにかしら？この人」と思ったかもしれません。とにかく無事にゴールする事が私の本日の使命、楽しさは二の次と思っていたら、差しかった剣道場から子どもたちの元気な声が響いてきました。子どもの声を耳にできるっていいなあと感じました。何気ない事ですがこういう町の空気に触れて大切にすべき事、守っていききたい事についてもちょっと考えた「まち歩き」でした。